

彦根市総合教育会議 会議録要旨

令和 7 年度第 2 回彦根市総合教育会議	
日 時	令和 7 年 11 月 13 日（木） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
場 所	彦根市役所 5 階 第 1 委員会室
出 席	<div>彦根市長 田島 一成</div> <div>副市長 青木 洋</div> <div>教育長 西嶋 良年</div> <div>教育長職務代理者 田附 孝子</div> <div>委 員 小松 照明</div> <div>委 員 本田 啓子</div> <div>委 員 永瀨 隆</div>
欠 席	なし
議事次第 1 議題 (1) 教育大綱の策定について (2) 令和 8 年度予算について	

○企画課長

大変お待たせいたしました。本日は、お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。ただいまから、令和 7 年度第 2 回彦根市総合教育会議を開催いたします。本日の進行を務めさせていただきます企画課長の種村です。どうぞよろしくお願いいたします。

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により設置しているもので、本日の総合教育会議は公開により開催いたします。

はじめに、教育委員会から報告事項があると聞いておりますので、よろしくお願いいたします。

○教育部長

教育委員会からご報告をさせていただきます。この度、本田啓子教育委員におかれましては、文部科学省が行われる地方教育行政において、その功労が特に顕著な教育委員会委員の方について、その功に報いるとともに地方教育行政の発展に資するための地方教育行政功労者としての文部科学大臣表彰を受賞されました。

また、永瀨隆教育委員におかれましては、滋賀県が行われる地方教育行政の発展のために尽くされたご功績顕著な方として、滋賀県教育功労者表彰を受賞されることとなりましたので、ご披露させていただきます。以上です。

#### ○企画課長

本日は議事次第に従いまして意見交換をしていただく予定としておりますが、遅くとも15時30分を目途に終了させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

つづきまして、本日お配りしています資料につきまして、確認をお願いします。まず、次第が1枚、資料1として「次期彦根市教育大綱の策定に向けて」が1枚、資料2として「彦根市教育大綱（案）」が1部、資料3として「体系図（案）」が1枚、資料4として「教育大綱（案）のポイント」が1部、資料5として「令和8年度教育委員会事務局予算編成方針」が1部、参考1～2として「表紙のデザイン案」がそれぞれ1部ずつとなります。不足等ございましたら事務局までお願いします。

それでは、議題に従いまして進めさせていただきます。まず、(1) 教育大綱の策定について、事務局から説明をお願いします。

#### ○事務局

それでは議題1の教育大綱の策定について説明させていただきます。資料1の「次期彦根市教育大綱の策定に向けて」をご覧ください。

8月に開催しました第1回の総合教育会議での意見等を踏まえまして、令和3年度の前回策定時から現在までの社会の変化や、子どもたちにとって重要なこと、国県の動きについて、挙げております。緑色に色付けされた部分になります。次に基本方針を「心を磨き可能性を引き出す彦根の教育」とし、サブタイトルで～主体的に学びあい、自分らしく輝く未来をつくる～としました。基本方針の「心を磨き」の部分では特に非認知能力を育てることを意味しており、将来につながる能力の育成を目指し、前回から引き続いた表現になっております。彦根と教育の間に「の」を入れたのは、滋賀県の教育大綱においても「滋賀の教育」とされており、また、彦根教育とすると固有名詞として捉えられる可能性もあることから、彦根の教育という表現で、地域の恵みを生かした教育を目指していきます。

サブタイトルには学習者が一人で学ぶのではなく、それぞれが一緒に主体的に学びあうことを目指すとしています。後半部分は彦根市総合計画との整合が取れるように自分らしく輝くという表現を入れています。

次に基本方針となる4つの柱を設定しました。1つ目が「(1) 新しい価値を生み出す学習者主体の学びをつくる」とし、学習者が受け身になることなく主体性を尊重し、また、教師からの一方的な教え込みにならないように指導性を発揮するという文言を入れました。また、問題設定・解決能力、思考力、判断力、表現力等の認知能力のみならず、テストの点数では測ることのできない、自己肯定感、創造性、共感性等の非認知能力を育てる教育を進めます。

2つ目が「(2) 誰一人取り残さない共生社会をともにつくる」とし、多様なニーズを有する子どもたちに応じた支援を充実させ、共生社会を共につくることを入れました。共につく

るという表現は、それぞれの状況に応じた個別最適な学びの機会を確保することに加え、子どもたちがそれぞれの多様性を認め合い、互いに高め合う協働的な学びの機会も確保することで、一人ひとりの能力や可能性を最大限に引き出す教育につなげたいという思いで入れました。

3つ目が「(3) 地域の恵みを生かし、生涯にわたって学ぶ機会をつくる」とし、彦根城をはじめとした歴史や自然、文化、人等の彦根ならではの恵みを生かしながら、市民のニーズに合った生涯学習の機会をつくることを入れました。現状の公民館、図書館、博物館等の社会教育施設の効果的な活用を図るとともに、学校を核とした家庭や地域が連携・協働し、子どもたちの成長を支える活動の充実を図っていきます。

4つ目が「(4) 学び手の思いを実現する環境を整備する」とし、こちらは、資料1においては並列に見えますが、また後から体系図を使って詳しくご説明いたしますが、前段の(1)～(3)を踏まえた環境の整備という意味合いで、ハード、ソフト両面の整備を意味しています。(1)～(3)を達成するための土台を言う位置づけであるため、他の基本目標と横並びではないので敢えて「整備する」という言葉を残しています。ICT環境やDXの推進に始まり、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動や学校現場の働き方改革、学校施設や社会教育施設の改修も含まれています。また、学校規模・学校配置の適正化、図書館の整備にも取り組み、子どもたちが安心して、学校生活を送ることができるように家庭、地域、関係機関で連携・協働による学校生活の安全を推進します。資料1の説明は以上になります。

#### ○企画課長

ありがとうございます。それでは資料1について基本方針については前回までの内容をベースとして、また、基本目標については前回の5つの柱から4つの柱に集約するという形で案をお示ししております。こちらについてご意見等ございましたらお願いいたします。

#### ○田附委員

最初の基本方針のところで、前回に引き続いて「心を磨き」という表現は良いなと思うのと、「彦根の教育」とするのは私も賛成の意見です。副題については「主体的」の前に「多様な」という文言を入れてみてはどうかと思いましたが、言葉の繋がりもあるのでそのままが良いと思います。基本目標(1)についてですが、非認知能力を高めることで結果的に認知能力の向上につながるという研究結果も出ていて、彦根市も取り組んでいて成果も出ていると聞いています。また、学校長の意見の中にも非認知能力の向上に注力していくといった内容も多かったのもっと前向きに押し出しても良いかと思いました。取組としては幼児期から小中学校への連携した教育というのが重要かと思うので、コミュニケーション能力や協調性を育てていただきたいです。基本目標(2)についてですが、一人の幸せはみんなの幸せにつながる体験を積み重ねということで、「ウェルビーイングな社会実現するための資質・能力を育てます。」をという文言を入れてみてはどうでしょうか。基本目標(4)

についてですが、最後の「整備する」という文言を「整える」くらいにしてはどうかと思いました。

#### ○本田委員

基本的には今ほど説明のあった形でとてもすっきりとシンプルで明確だと思いました。「彦根の教育」というのは私も現職の時から 38 年間、この言葉をよりどころにしてきましたし、子ども中心や子ども主体であることや創り出す教育といったものを示すものだと思います。また、心育む情操教育や読書、地域から学ぶ彦根の歴史や文化も大切だという思いを「彦根の教育」に込められているのだと思います。前回の基本方針からは「ふるさとに愛着と誇りを持ち」という文言が無くなっていますが、これはどの自治体でも言えることなので、あえて入れておく必要もないと思います。

副題の「主体的に学びあい」の部分ですが、「ともに主体的に」や「学びあい」という一見相容れない言葉のようで、自分の意志や判断に基づいて能動的に行動するという意味合いが強いですが、お互いが対話を通して考えたりしながら学びあって解決したり、自分を成長させることへ向かう関係性の大切さが表現されているのかなと解釈しています。

4 つの基本目標についてですが、ほとんどこのままで大丈夫だと思いますが、1 つ目の基本目標で学校種や学校段階という言葉の中には幼児教育の重要性も含まれているのかなと思います。2 つ目の基本目標は国や県だと「取り残されない」という表現が一般的ですが、主観的に「取り残さない」と言った方が 1 人 1 人の多様性を大切にするという覚悟や、そういった人間関係の重要性が伝わってくる表現になっていると思います。ただ一つ、「いじめ」という言葉がどこにも出てこない点が気になっています。みなさんご存じだと思いますが、大津市のいじめ問題などもあって、平成 25 年にいじめ防止対策推進法ができ、翌年には彦根市のいじめ防止基本方針も策定されました。令和 4 年度に改正もありましたが、いじめが完全になくなったわけではありませんので、どのような形でも良いので「いじめ」に関する文言が入っていても良いのかなと思いました。3 つ目の基本目標は「地域の恵みを生かし」というところで、活用の「活かす」を使うことも多いですが、広く一般市民に知ってもらうことを考えると、公的な文章などに使用される「生かす」で良いと思います。

#### ○企画課長

ありがとうございます。それでは田附委員と本田委員からのご意見について、何かございますでしょうか。

#### ○教育長

いろいろなお指摘をいただきましてありがとうございます。田附委員からの副題の中に「多様な」という文言を入れてみてはどうか、というご意見ですが、案の策定を進めていく中で同様の意見もあったのですが、いろいろと検討を重ねておりまして、できるだけシンプ

ルな表現で伝えられるようにするという方向性にしました。また、「主体的に学びあい」の部分ですが、学びあうためにはそれぞれ 1 人 1 人がお互いを認め合いながら切磋琢磨していくことが必要となりますので、学びあうという言葉にその思いを込めたところです。それからウェルビーイングについて、基本目標の 2 つ目がまさにこのことを大事にするということになるのですが、教育大綱の役割として広く市民に知っていただくことが大切であり、教育関係者以外の方にとってこの言葉が十分に浸透していないのではないかということもあって、あえて言葉としては入れないこととしました。基本目標の 4 つ目の「整備する」の部分も「整える」などの他の表現も含めて検討をしましたが、ハード面、ソフト面の両方に関することから、検討の結果、「整備する」にしました。

次に本田委員からは、幼児教育との繋がりの部分で学校段階間に触れていただきましたが、これは本市の教育において今後も大事にしていくべきことで、幼児期の学びの中で培われた資質や能力をこれまでしっかりと小学校へ繋いでいるか、という反省に立って取り組んでいきたいという強い思いを持っています。また「いじめ」という言葉が入っていないことについては、他の委員の方のご意見もいただきながら考えていく必要があるのかなと思っています。

#### ○企画課長

今ほどの教育長からの発言を受けて、ご意見等ございましたらお願いします。

#### ○本田委員

「いじめ」という文言をどうしても入れて欲しいというよりは、この教育大綱を受けて教育行政方針を作成すると思うのですが、学校の先生たちも見ていますので、そちらでもっと具体的な施策が記載されるのであれば良いと思っています。

#### ○永濱委員

先ほど教育長から「学校段階間」という言葉の意味について説明いただいて納得したところではあるのですが、他の資料の用語集の中にも説明文を読む限りでは一般的な市民で、教育関係者ではない方が読んで理解いただけるのかという不安はあります。私自身があまり聞き慣れない言葉でもあったので、用語集にはもう少し丁寧な説明を入れてみてはどうかと思います。

2 点目は基本目標の 4 つ目ですが、文章の構成として各論から入っているような感じがしています。いきなり ICT やコミュニティ・スクールに関する文章から始まっており、どれも大切に順位は関係ないかもしれませんが、後半部分で書いている安全安心の部分を冒頭に持ってきて、そのあとに細かな表現が来る方が、私は読みやすいと感じました。一度、検討いただいて、そのままでも結構ですので、よろしくお願いします。

○企画課長

先ほどの「いじめ」の表記を入れるかどうかという点について、他にご意見等はございますでしょうか。

○教育長

子どもたちが安全・安心な環境の中で自分の持てる力を伸ばしていくためには、いじめ問題はゼロになることが理想ですが、現実的には難しい部分もあるので、いじめの見逃しをゼロにするという決意のもとで各学校現場では取組を進めていただいています。基本目標の中に文言を入れ込むとすれば、「障害やいじめ、不登校」といった形で併記してみるのはいかがでしょうか、ご意見をいただければと思います。

○市長

少し別の表現の提案になりますが、いじめを不登校や障害の部分と並列で取り扱うのはちょっとレベルが違いすぎるかなと思います。基本目標（２）の説明文の最後にある文章に付け加えて、「一人の幸せがみんなの幸せにつながる体験を積み重ね、多様性を尊重し、差別やいじめのない共生社会を実現するための資質・能力を育てます。」としてみてはどうでしょうか。選択肢の一つとしていただければと思います。

○企画課長

ありがとうございます。今ほどのご意見を踏まえて、教育委員会と調整をさせていただきたいと思います。先ほどの永濱委員からの提案がありました学校段階間について、用語集でもう少し詳しい解説を加えることや、基本目標（４）の文章構成について、ご意見等ございましたらお願いします。

○小松委員

今回の内容は現場の校長先生はじめ市長、教育長のヒアリング内容を反映していただき、以前よりもかなりブラッシュアップされた良いものができたと個人的には思っています。先ほど言われた基本目標（４）について各論から入っているという点ですが、私自身はこのままでも良いのかなと思っています。基本目標（１）～（３）を総括した形で整備することですので、やはり重要なところは何かというところから入っているので、この表現の方が分かりやすいと思います。それと用語集の学校段階間・学校種間という言葉は一般的な表現なのですか。私はあまり馴染みがないですが、もし一般的でないのであれば少し見直してみてもどうかと思います。

○企画課長

ありがとうございます。他にご意見はございませんでしょうか。それでは資料１につい

ては以上とさせていただきます、次に資料 2 からの説明を事務局からお願いします。

#### ○事務局

資料 2 をご覧ください。資料 1 でご説明した内容を教育大綱案としてお示しするものです。資料 4 において簡単にポイントをまとめておりますので、口頭では省略しながら説明させていただきます。資料 2 の 2 枚目に彦根市教育行政の体系図をお示ししています。先ほども基本目標をご説明させていただいたように (1) ～ (3) の土台となる (4) ということが視覚的にも分かるのではないかという思いで作成しました。なかなかイメージを図にして伝えるのが難しく感じており、ご意見をいただけると幸いです。また、資料 3 において、基本目標のタテ並び版も作成しておりますので、併せてご覧いただくようお願いします。

次に、これまで 4 年ごとに教育大綱の内容を見直すこととしていましたが、彦根市としての教育政策に関する方向性は数年ごとに頻繁に変わるものではないという理由から、事務局案では期間を設けないこととしました。社会情勢の変化や、国・県の動きによって必要に応じて見直しを行う予定です。

次ページ以降は基本方針や基本目標を記載しており、これまでは基本目標にぶら下がる各施策を記載しておりましたが、期間の設定を設けないこととしたことから、次期教育大綱では基本目標の説明のみとし、毎年作成している「彦根市教育行政方針」に含めることとしました。

最後のページは用語集としております。また、本日参考資料 1～2 で表紙のデザイン案をお示ししています。今回は期間設定をしないことから、よりシンプルに背景を入れずに文字のみに戻すのも一つかと考えておりますが、ご意見等ございましたらよろしく申し上げます。こういった写真はどうかといったご意見がありましたら、第 3 回会議までに準備する予定です。説明は以上となります。

#### ○企画課長

今ほどの説明について、ご意見等はございますでしょうか。

#### ○小松委員

資料 4 について 2 点あるのですが、まず教育大綱の基本目標は説明文までとするとのことで、細かな施策は教育行政方針に載せることで対応できるとの内容でした。教育大綱はホームページでも公開しているので、彦根市の教育関係者以外や他市の方にも分かりやすいように、具体的な取組があった方がよいのではないかと思います。それぞれ目標に対して 3 つほどの取組を入れて完成するような気がします。

もう 1 点は、計画期間をこれまで 4 年ごとに見直していたものの期間を設けなくすることです。教育行政においては 4 年間というのはかなりの環境の変化があって、例えば不登校の問題、部活動の問題、少子化の問題や学校の老朽化の問題などです。もしも、期間

を設けないとするのであれば、どのタイミングで誰が見直しのタイミングを判断するのかを明確にしておくべきだと思います。

○本田委員

質問ですが、彦根市の総合計画は大体何年くらいですか。

○企画課長

彦根市の総合計画は12年間の基本構想がありまして、具体的な基本計画を4年ごとの前期、中期、後期としており、3期に分けて管理をしているところです。

○本田委員

国の計画に基づいて県が滋賀の教育大綱を策定されて私たちの手元にもリーフレットが送られてきました。これも一つのスローガン的なところもあるのですが、せめてそれに沿って見直すことはある程度必要なのではないかと思います。決めておかないと先ほどもあったようにいつ誰がどうするのかといった話になる気がします。

それと資料2と資料3にある体系図についてですが、資料2は基本目標(1)～(3)が横並びになっていて文章としては読みにくいですが、(4)が土台となっている構造的には良く分かります。段差やスペースをつけるとか見え方の工夫が必要かと思います。

表紙については好みの問題もありますが彦根市教育大綱という文字を大きめにして、その下に「磨く」とか「磨く教育」のようにサブタイトルを入れて飾っても良いのかなと思います。

○永瀨委員

表紙については、文字だけでは寂しく感じますので、予算が許すのであれば彦根市の風景であるとか、活動であるとかを入れていただきたいです。また、小松委員も言われていましたが、計画期間を撤廃するのであれば、今まであった計画期間の項目を削除するのではなく、こういった意味合いで期間を設けませんということを書くべきではないかと思います。今の案のままで、これまで見てきて人からするといきなり項目が無くなっていることになってしまいます。こういった行政的な計画には期間が設定されるのが常識なのかと思っていましたので、本当に期間を設定しないのであれば、どういう時に変えるのかということは私も同じ意見です。

また、体系図のところですが、説明を聞いて基本目標(4)が(1)～(3)の土台という意味合いなのは理解しました。例えばお城をモチーフにした絵を入れてみて、土台となる部分を石垣にしてみてもどうでしょうか。

○田附委員



表紙については他の委員の意見と同様で、彦根らしい写真があれば良いのではないかと思います。体系図については 3 つの目標が並んだその下に土台となる目標があるのは分かりやすいと思いますが、本田委員も言われたように文章としては読みにくいかもしれないので工夫が必要かと思います。

計画期間については私も決めないよりは、年々状況も変わっていきますので 4、5 年とか決めておいた方が良いのではないかと思います。

#### ○小松委員

細かいことですが用語集でコミュニティ・スクールが入っているので、並列して地域学校協働活動を入れるべきではないでしょうか。ペアで説明した方が良いと思います。

体系図についてですが、基本目標（4）だけが一つポツっとあるのは分かりにくいので、例えば（4）だけ大きな囲いをして（1）～（3）と繋がっているような見せ方が良いのではないのでしょうか。要は土台となっていることが分かるようなイメージができれば良いと思います。

#### ○企画課長

ありがとうございます。他にご意見等はございますでしょうか。

#### ○市長

実はこの 4 年という期間を外してはどうかという提案をさせていただいたのは私でした。今回皆様にご審議いただいている教育大綱ですが、大綱というだけあって教育計画や教育方針と同じような扱いではなく、彦根の教育について大まかな内容を示しているものや教育の根本となるものが、果たして 4 年ごとに変わってしまっても良いものだろうか、といった皆様とは逆の視点で考えさせていただいたところであります。市長選挙の結果によって教育大綱がゴロっと変わることが本当に良いのだろうかという思いです。また、大綱の中に具体的なゴールが書かれておりますが、基本目標のきちとした評価を伴って出していくのであれば年限を区切っていくことへの正当性は理解いたします。これまでありました目標の達成度であるとか、残念ながらそっちのけで更新されてきたように思われます。教育の骨組みである大綱としてお示しさせていただいている今回の案ですが、例えば ICT や様々な技術の進歩で色褪せてしまうこともあろうかと思いますが、そのようなタイミングで教育大綱と照らし合わせながら適宜見直しを行っていくべきではないでしょうか。時代的に遅れている内容などのご意見が大半となった際には、基本目標や基本方針を見直す必要がありますが、4 年後に必ずこの目標が変更されるといった保証や確約も全くない中でむやみやたらと改正を前提とした改正が目的となっていくことだけは回避すべきだと思っております。

○企画課長

ありがとうございます。この計画期間を設けるか、設けないかについても他にご意見等ございましたらお願いします。

○小松委員

今ほど市長がおっしゃった考え方ですけど、私はこれまで大綱は4年ごとに見直す前提で策定しているものだという認識でございました。教育の根幹や変わるべきものではないという前提の考えに立つのであれば、日本国憲法ではないですが教育の神髄的な項目を出さないといけないと思います。先ほども言っていた主な取組を載せることはすぐわないですし、今回の基本目標はブラッシュアップされて恒久的なものになりつつあるのは理解できます。そこまでの市長の思いがあるのであれば基本方針と基本目標だけで大綱を作るということでも良いと思います。4年という期間にはこだわらないので市長がどこかのタイミングで現行の教育大綱でも十分通用するか否かの判断をしていただければ良いのではないのでしょうか。教育大綱は市長の考えで成り立っているものです。他市の教育大綱を見るとそこまで踏み込んだものが無いので、具体的な取組がないと分かりにくいかもしれないと思って発言させていただきました。市長のお話を聞いて初めて市長の思いを知ることができましたし、このような前提で進めるのであれば良いのではないのでしょうか。

○市長

これまでの積み重ねてこられたことを踏まえ、教育大綱という点から入ったこともありまして、このような判断とさせていただいたことをお詫び申し上げます。

○企画振興部長

今ほどご議論いただいている教育大綱の中で、なかなかこの場で結論まで出すのは難しいと思います。基本計画の中で少し具体的な内容を盛り込むかどうかや、計画期間が必要なのか否かといったところ、また、期間を設定しないのであれば次にどのタイミングで見直すのかといったところを含めてもう一度整理をさせていただきたいと思います。

○企画課長

それでは今ほど企画振興部長からもありましたように、教育委員会と再度調整をさせていただき、次回の会議でお示しできればと考えております。第1部としておりました「教育大綱の策定について」は終了させていただきます。10分ほどの休憩を挟みまして、第2部「令和8年予算について」に入らせていただきます。

(休憩)

○企画課長

それでは議題（２）令和８年度予算について教育委員会からご説明をお願いします。

○教育部次長

それでは資料５をご覧ください。令和８年度当初予算重点事項に関わります教育委員会事務局の予算編成方針を説明させていただきます。令和８年度予算編成についての考え方ですが、今ほども議論いただいております教育大綱に掲げる基本方針である「心を磨き可能性を引き出す彦根の教育」を実現するために、学校教育、家庭教育、社会教育がそれぞれの役割を最大限発揮するとともに、相互に連携、協働しながら地域全体の教育力の向上を図ることを目指しております。教育委員会、学校と家庭、地域等が次世代を担う子ども真ん中に据えて激しい変化が止まることがない時代を生きる資質、能力を育み持続可能な社会の創り手を育て、日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図るという目標を共有し取組を進めていかなければなりません。令和８年度におきましては現在ご議論いただいている教育大綱の考え方に沿って４つの基本目標を実現できるよう各種教育行政施策を推進してまいりたいと考えております。現在、各担当課からは予算要求をしているところですので、よろしくお願いします。

○企画課長

今ほど予算編成方針について説明がありましたが、このことについてご意見等ございましたらお願いします。

○小松委員

４つの基本目標で言いますと２つ目の誰一人取り残さない共生社会の部分に該当すると思うのですが不登校の問題です。教育研究所の中にあるオアシスですが、一つの不登校対策所のようになっているのですが、最近はフリースクールの方が注目されておまして、オアシスの役割については議会でもあまり取り上げてもらっていないのが現状です。１０年ほど前は予算も１２０万円ほどあったのが今では１４万円ということで、どんどん削られている状況です。ただ、オアシスには現在中学生が１３名在籍されていて、フリースクールには中学生が３名です。フリースクールには小学生が多いのかなと思います。このような現実を踏まえてもオアシスにおける不登校対策をフリースクールと共にどのように共生させるのかといった点を検討いただきたいです。オアシスは市のバックアップのもとで２８年も前に発足した組織になります。２８年間ずっと運営していますが、徐々に予算面ではじり貧になってきて、人員も足りなくなっています。フリースクールはフリースクールで必要だとは思っていますが、オアシスについても機能は維持していくべきだと思います。また、教育委員会の組織的にもどうしていくのかという問題もあると思います。いじめ対策と学校教育の両方向が同じ組織になっているので、予算も含めて見直すところは見直す必要があるのでは

はないでしょうか。

○市長

前年度から引き続いての厳しい財政状況が続く中ですが、税収やふるさと納税なども堅調に推移しているところでありますが、令和 8 年度は何とか赤字予算とならないように一次査定を終えたところです。今後、二次要求に向けて各部局で事業の精査や重要性を検討いただいていると思いますが、それおれが置かれた現状等をしっかりと聞かせていただいたうえで判断させていただきたいと考えています。他市町の状況などと比較するとフリースクール等も決して十分な人員配置がされているとは言えない状況が今日まで続いております。このままでは現場の先生方へのしわ寄せが大きくなっていくことも考えられますし、議会でもフリースクールへの支援を求める声が上がっている状況を踏まえまして、しっかりと教育、福祉の部分へも目を向けていきたいと考えております。厳しい財政状況であることには変わりありませんが、昨年よりも今年、今年よりも来年と少しでも光を当てることができるよう予算編成に心がけていきたいと思っていますところです。

○本田委員

財政状況が厳しいという話はここ数年ずっと聞いておりますので重々承知しています。だからお金に頼らない部分でも知恵を出していけたら良いのですが、教育課題が山積していて人の力が本当に大きいというのもその通りです。先ほどのオアシスの件もそうですが、最初の頃の教育研究所は彦根の歴史についてまとめるであるとか、昔話を作るだとか財産をたくさん残してくれるような、そして若い先生たちがそこで勉強して成長していくような中心的拠点だったように思います。そこでオアシスが始まってからは、不登校の生徒もどんどん増えていて、なぜこんな良いところなのという思いもあります。オアシスだけではなくそれぞれの学校でも教育支援室などがあって、一人も取り残さないようにちゃんと保障してあげるには、サポートスタッフも必要ですし、市長がおっしゃったように福祉と教育は最優先でお願いしたいというのが私の願いです。

また、近年のデジタル化になっていて、国策である部分もあるのでそれは進めるべきなのですが、アナログの底力という点で例えば読書についてです。図書館はありますが、そこに行けない子たちは学校の図書室を利用するので、図書の充実をお願いしたいです。読書離れが進行して、中には語彙力も貧弱で漢字も書けない子がいるもの実態だと思っています。子どもへの投資ですから、大人がしっかりと環境を作ってあげて欲しいです。この前、彦根城博物館へ行ったのですが、私と同年代くらいの方が「この博物館は特別だね、勉強になるね」と話しておられるのが聞こえてきました。展示するにもお金はかかりますが、彦根の歴史や文化を残すために少しずつでも良いので修理の予算もかけて欲しいです。

○田附委員

私も教育研究所の件ですが、学校へ復帰するために子どもたちが自立していく場所ですし、そこでの体験活動などは重要な役割を果たしています。財政難であることはよく分かっているのですが、未来を担ってくれる子どもたちへの投資はやはり重要だと思います。子どもたちが本当に困っていることを最優先していただけるとありがたいです。また、学校のトイレについて現在も何校かごとに直していただけていますが、子どもたちによっては家のトイレに近いものでないと学校に行けないという場合もあります。できるだけ早く全市内の学校が綺麗に改修されることを願っています。それと学校給食の件ですが、私も去年に小学校の給食を頂くことがあって、その日に限ってなのかもしれませんが本当に寂しい給食と言いますか、果物もデザートも何もなく色も見た目も美味しそうと思えませんでした。食材の高騰もあって仕方ないのかもしれませんが、ちょっと残念でした。調理機が無いと調理もできませんし、美味しい給食もできませんし、異物混入なんてあってはならない命に関わることなので、そこに関する予算についてもお願いしたいです。もう1点、非認知能力のことで、やはり情操教育がすごく大事だと思っていて、最近はいろんな事件が起こっていて子どもたちにも影響しているのではないかと危惧しています。心の力を磨くためにも情操教育については考えていただきたいです。校舎の壁の改修とかいろいろあるのですが、学校の適正配置とか考えていくと建て替えなども計画的に検討いただきたいです。

#### ○永瀆委員

他の委員の方が同じようなことを言われているので重複する部分は省略しますが、私も強調したいのが教育研究所についてです。子どもたちは小中さらに高と繋がっていく方が多くなっていると思うので、高校、大学といずれ戻ってきてもらえるというか、一時的に学校に行けないだけであって、上手く社会に出ていけるように環境を作ってあげる最初の部分になると思うので、力を入れていただきたいと思います。それと中学校の給食に関してですが、学校給食センターにおいては甲良町や豊郷町その他町にも給食を配っていて、調理器具の不備や故障などが起こると他町にも迷惑をかけてしまいます。衛生的な部分でも必要最低限の修理などは必要ではないかと心配しております。博物館の資料について、例えば井伊家から寄贈いただいた歴史的にも重要なものなどを放置していると傷んでいく一方で、保存するためにも修復はしていくべきだと思います。1つ新たなことになりますが、学校ICT推進課、学校教育課のマンパワーが不足しているのではないかとこの点です。ICTを一例に挙げますと、せっかく1人1台のタブレット端末が来て、ネットワークも接続し、それらを教える先生方、メンテナンスを含めたSEの方、授業中の副担任的な役割を果たすICT指導員など国は4人に1人の配置を言っていますが、滋賀県全体でみると44%程度で市町によって差はあるのですが決して多くはない現状となっています。現場の先生方がそういったサポートに時間がかかってしまって疲弊してしまうことがあってはならないと思いますので、そのサポートを行うマンパワーの充実にも力を入れていただきたいです。学校教育課で言いますと、小1すこやか支援員というのがありまして、幼保小の連携というところで

重要な役割の一つでもあります。かつては国の補助金があったのですが、今は市費のみでお願いしているところです。夏休み明けの9月、10月までではなく、そのあとも継続したサポートをしていただけるとありがたいです。財政状況のこともあるので贅沢は言えませんが、現場の先生方には大きな助けになるのは間違いないと思います。今年度は期間を延長していただけるということで大変好評だったと聞いておりますので、よろしくお願いします。

#### ○教育長

教育委員の皆様からは安全安心な学校づくりに関しての意見が多かったように思っておりますが、現在審議いただいている教育大綱の基本目標の実現に1番のポイントとなるのが、誰にとっても安全で安心な環境づくりだと思っています。ただ、市の財源には限りがありますし、何に投資すれば効果がより上がるのかという視点をしっかり持って、教育施策への取組を進めていきます。私が今一番効果のあって取り組まなければいけないと考えているのは、不登校の問題で言いますと校内の教育支援教室の機能充実です。全ての学校に校内教育支援教室が設置されまして、先生方も意欲的に取組を進めていただいている、本市の不登校の児童生徒は減ってきていると思っています。やはり教育支援教室があることで子どもたちが学校と繋がることになっていろいろな支援がしやすくなり、その充実のためにはマンパワーが必要になってきます。そこを何とかしなければという思いです。より効果の上がるところへの投資ということで、教育委員会としても施策の充実を図っていければと考えております。

#### ○企画課長

ありがとうございます。次に議題2のその他について事務局からお願いします。

#### ○事務局

第3回目の会議は来年の2月5日木曜日の午後2時からを予定しておりますので、あらためて開催通知等は送付させていただきます。教育大綱の見直しについても第3回会議が最後になりますので、よろしくお願いします。

#### ○企画課長

それでは最後に市長から本日の会議についてコメントがありましたらお願いします。

#### ○市長

教育委員の皆様からは本当に現場で全てをご覧になられたかのような、詳しく細かなご指摘を頂戴いたしました。あれもこれもと期待に応えたお返事をさせていただけるのであれば良かったのですが、あれかこれかというような非常に厳しい選択を迫られるという状況下にあることをご理解いただいた上でのお尋ねだったように思います。不要不急のもの

については厳しいチェックを入れさせていただく一方で、どうしても急がなければならない課題について、例えば蛍光灯から LED に切り替えができていない学校施設や、普通教室の冷暖房が整っていないところもあり、また、洋式トイレ化が進んでいない学校も残っております。コロナ禍においてあれだけ優遇された交付金があったにもかかわらず、なぜ全て改修しなかったのだろうかという気持ちもあります。これから優先順位をしっかりと検討しながら未整備の学校には手を入れていけるよう努めてまいります。議会では学校の体育館に冷房を入れて欲しいといった要望も挙がっておりますし、本当に挙げればキリのない数多くの未改修や未整備の部分についてご指摘をいただいております中で、さらに教育研究所への支援や不登校対策、学校給食といった諸課題もお示しいただきましたが、これら全てを実施しようとする、他が何もできなくなってしまうような状況にあります。ただ、教育委員会は、例えば中学校生徒会長公約実現事業を予算するにあたり、クラウドファンディングという言わば市民の善意でのご寄附をいただいて、予算の原資として事業を展開していただくなど、財政支出を伴わずとも実現していただいているところです。新たな図書館中部館建設や彦根城内の高橋の改修にあたってもご寄附という形で何とか実現に繋がっているところです。またいろんなアイデアや方法等のご助言を頂ければありがたいと思います。以上です。

#### ○企画課長

ありがとうございます。それではこれをもちまして令和 7 年度第 2 回総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。

(終 了)